

教材教具および題材	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
お弁当を作ろう ～いろいろな素材や道具を使って～	小	グループ学習 低学年・ひまわり （図画工作）	柴田響子

<ねらい>

- ・いろいろな道具を使って、いろいろな素材を変化させることを楽しむ。
- ・教師や友達とやりとりしながら、できあがりイメージしてお弁当を作ることを楽しむ。

<内容（作成方法・使用方法・工夫点など）>

①絵本『おべんとう』を見聞きし、おいしいお弁当を作ることへの期待感を高める。

②お弁当のおにぎり、おかずを作る。

A：ハンバーグ弁当（おにぎり・ハンバーグ・スパゲティ）

おにぎり→コーヒーフィルターにティッシュを詰め、両面テープで貼り合わせる。  
海苔や梅干しに見立てた画用紙を貼る。

ハンバーグ→丸いダンボールでクラフト紙を包む。フライパンで焼く真似をする。

スパゲティ→毛糸をはさみで切り、アルミカップに入れ、具材に見立てた細かい画用紙をふりかける。

B：卵焼き弁当（おにぎり・卵焼き・タコウインナー）

卵焼き→細長い片ダンボールを端から丸め、両面テープとセロハンテープで端をとめる。

タコウインナー→画用紙に引かれた線に沿ってはさみで切り込みを入れ、丸めてホッチキスでとめる。フライパンで焼く真似をする。

③できたもの（+教師が準備したレタス・にんじん・プチトマト）をお弁当箱に詰め、みんなで食べる真似をする。

<良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）>

- ・児童が知っている身近なものとして「お弁当」を題材にすることで児童の興味関心も大きく、イメージをもって見立てたり、つもりになって作ったりし易かった。
- ・はさみ、両面テープ、ホッチキスは、ひまわりグループでは以前にも経験している道具であり、再度繰り返し何度も取り組むことで、どの児童も使い方が上手くなっていく様子が見られた。
- ・ハンバーグとタコウインナー作りでは、本物のフライパンを使って焼く真似をすることが面白く、どの児童も楽しんで取り組んでいた。おかずを作るだけでなく、おにぎりを握る動作をしながら作ったり、フライパンで焼いたりする活動を入れることで、さらにイメージをもって作ることができた。
- ・自分の作ったものに愛着を持ち、つもりあそびを楽しめる児童の実態であったので、作ったお弁当を見せ合ったり、食べる真似をしたりすることで、みんなで楽しさを共有することができた。



<その他（材料、費用、購入先等）>

コーヒーフィルター（白）、画用紙（黒・赤・黄・緑）、クラフト紙（茶）、毛糸（橙）、アルミカップ、片ダンボール（黄色）、フェルト（赤・橙）、フライパン

